# 北名古屋市の未来を考える

## 第２回 | 小さな自治と大きな自治

2月に開催した北名古屋市の未来を語る講演会「2030年の地域のあり方を考える」の内容について、シリーズでお伝えしています。第1回は、これから人口が全体として減少し、お年寄りの数が激増する中で、次の世代に大きな負担をかけない仕組みを作っていく必要があるというお話でした。

### 講演要旨（「小さな自治と大きな自治」編）

岩崎 恭典 氏

2025年までには、地域包括ケアシステムの構築が必要ということが言われているが、例えば、団塊の世代が、生活支援や介護予防、施設入所サービスを今と同じ仕組みのままで運営していると、介護保険の仕組みはすぐに破綻してしまう。

この仕組みを持続させるためには、生活支援や介護予防など、身近なサービスについては「向こう三軒両隣」でお年寄りを支え合う仕組みが必要で、これが「小さな自治」である。

一方で「大きな自治」は、セーフティネットである医療の部分、つまり、病院の整備や特別養護老人ホーム等の施設入所などは、公共で整備するという仕組みである。

まずは、北名古屋市にとって何が重要で、何が必要なのか、という仕分けをきちんとした上で、「大きな自治」の部分を北名古屋市単独でやるのか、近隣自治体と一緒にやるのか、それとも名古屋市の一員としてやるのか、という選択肢を検討する必要がある。

**市民記者 Q.1**

**北名古屋市のこれからを考えるために、まずは身近な「小さな自治」の仕組みを「地域に住む私たち」で考え、作っていくことが大切なのですね。**

**市役所 A.1**

そうですね。まずは、狭域で有効な「小さな自治」と、広域で効率的な「大きな自治」をきちんと仕分けすることが大切です。

**市民記者 Q.2**

**「大きな自治」についても、市役所や議員さんだけに任せておくのではなく、地域に住む私たちが、子どもや孫の世代の将来まで考えていく必要がありますね。**

**市役所 A.2**

「大きな自治」が担う部分は大きなお金がかかることが多く、複数の自治体でまとまったほうが、単独の自治体だけで行うよりも、効率的に行うことができる場合があります。

次回は、「広域化と効率化」について少し詳しくお話ししましょう。

**問合せ**　総務課